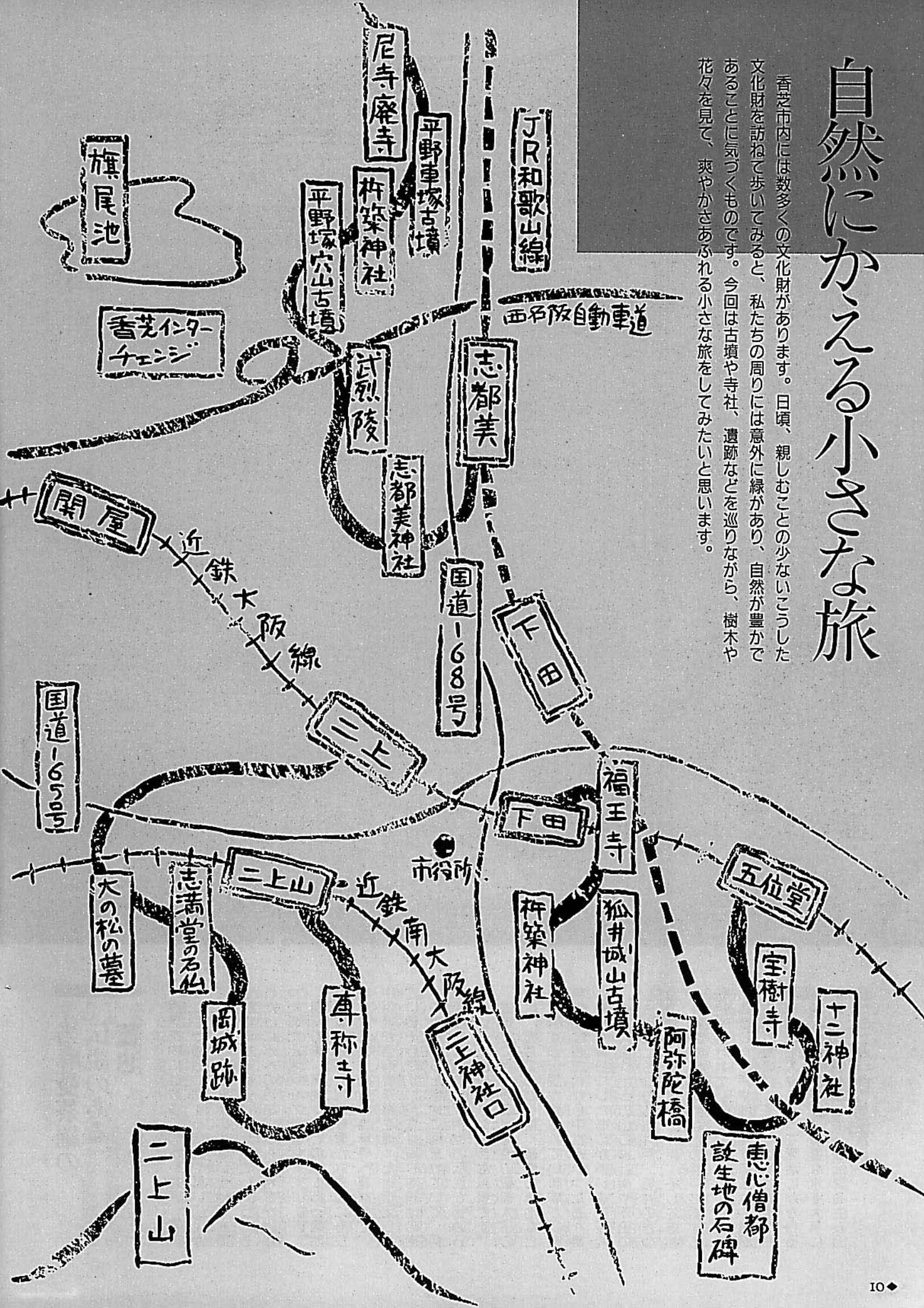


# 自然にかえる小さな旅

香芝市内には数多くの文化財があります。日頃、親しむことの少ないこうした文化財を訪ねて歩いてみると、私たちの周りには意外に緑があり、自然が豊かであることに気づくものです。今回は古墳や神社、遺跡などを巡りながら、樹木や花々を見て、爽やかさあふれる小さな旅を試してみたいと思います。





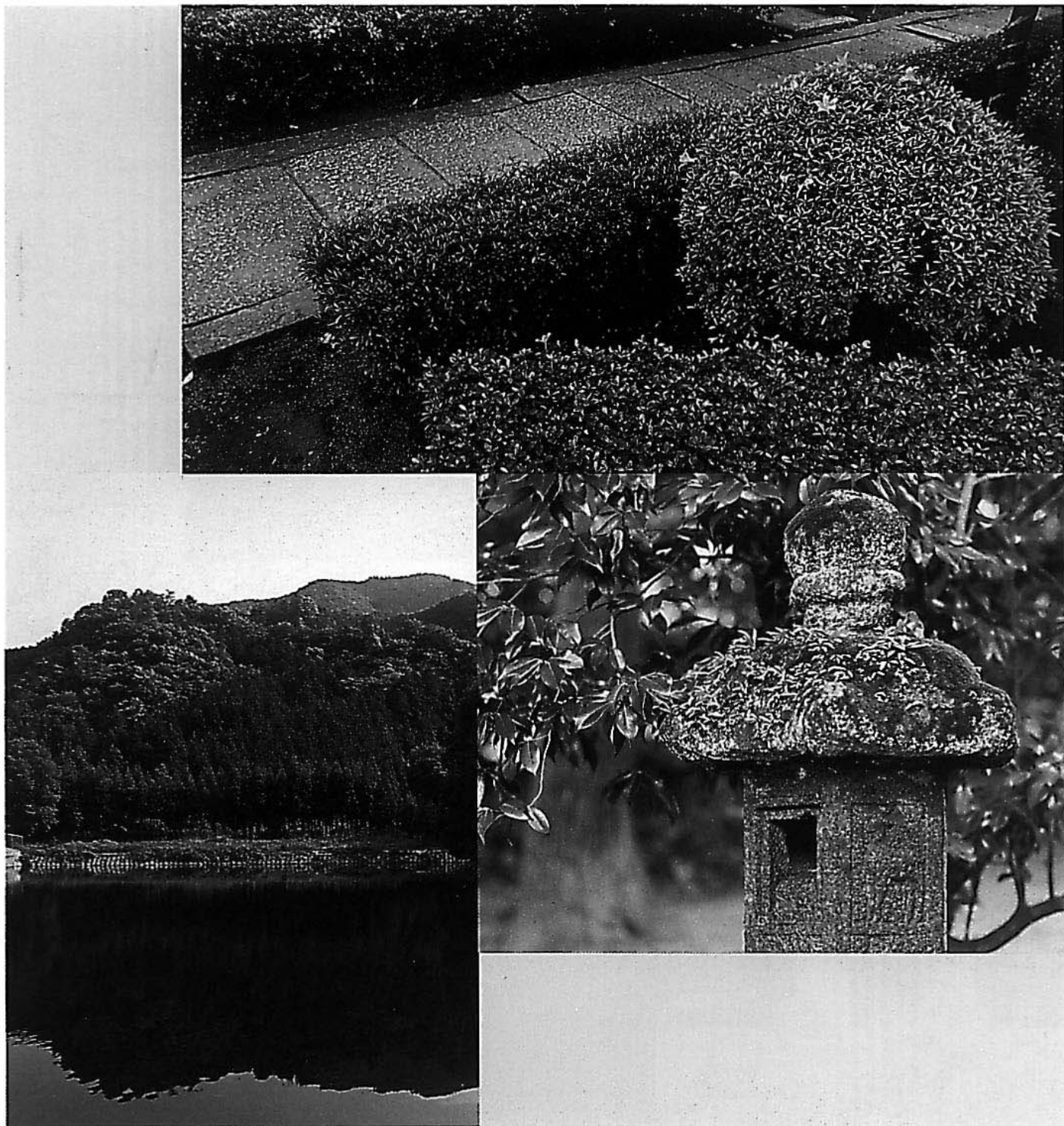
JR志都美駅から西へ。国道168号を横切り、派出所を過ぎて住宅地と田園の中をいきます。道がカーブした所に石の鳥居があり、ここが志都美神社の参道です。本殿の前には2本の枝垂れ桜があり、うねったような幹が風格をたたえています。周りはうっそうとした竹や杉などの林になっていて、静けさとともにひんやりとした空気が感じられてきます。木陰に入ると汗もひっこんでしまいそうな涼しさです。神社の横手には竹林の中を続く道があって、その風情は京都・嵯峨野の野宮神社辺りの感じがします。

神社を後に、北へ武烈天皇陵。砂が敷き詰め

飛鳥・白鳳の

られた向こうにこんもりとした森林が見えます。掃き清められた端正な御陵です。風がさわさわと樹林を鳴らしていました。

西名阪自動車道の下をくぐり、北へ。左へ曲がり、インターの前を通過して平野の集落の中へ。曲がりくねった狭い道を通り民家の中を抜けると、正楽寺の石段。境内にはモクレンなどの木立、アジサイなどの花がありました。本堂の左、石仏の横から古墳へと登ることができます。平野車塚古墳は雑木におおわれていますが、石室の穴が見えます。正楽寺の前から小道を抜けると杵築神社の参道があり、尼寺へは近い。



近鉄南大阪線の二上山駅から山の方を目指して歩くと、曲がりくねった民家の間を抜けて道は登り勾配が続きます。畑の集落の一番山手に当たるところに専称寺があります。ここは十一面観音像があることで有名な寺ですが、その境内の庭園の美しさでも知られています。

山門をくぐり、一歩境内に入ると本堂の前庭は緑に埋めつくされているよう。かなりの樹齢とおぼしき枝垂れ桜が空をおおうように枝を広げ、その下には苔が生えてしっとりとした山の気配が漂います。サツキやツツジの刈り込み、ボタンの鉢植え、そしてはずれには天高くイチヨウの大木がそびえて、緑豊かな花の寺といえます。

新しい観音堂の前を通過して道はまだ登り勾配

## 二上山麓の道

が続きます。民家が途切れると、うっそうとした森があり、春日神社への石段下へ出ます。森閑とした境内には、冷たい空気が漂い、杉やカシなどの巨木が本殿の背後に林を作っています。本殿左には苔蒸した古い石灯籠が並び、春先には椿の花によって彩られます。

春日神社から山手へ、大和高田バイパス(建設中)を横切ると、二上山の登山道の横には上の池が見えます。二上山に降った雨を集めた流れをためてできた池で、しずかな山上湖のようなイメージがあります。どこからかホトトギスの鳴き声が聞こえてきます。この上手に岡城跡があります。畑の集落から北西へとたどると、志満堂の石仏などがあります。

近鉄下田駅から南へ、国道168号沿いに歩いていきます。田畑の中の道を左へととると、こんもりした小山のような十字路へ出ます。その左手にあるのが杵築神社。本殿前には力比べをしたという力石が二つ並んでいました。狭い境内には桜や楠の木立が茂り、日陰を作っています。本殿の横には根っこもあらわにしたカシの木がありました。

神社のすぐ東隣には板仏で有名な福応寺があります。門をくぐると、境内。そこにはソテツや夾竹桃、南天、萩、クチナシなどが植えられていました。古めかしい本堂の前には、カエデ

辺り  
狐井城山古墳

の大木がうねったような幹を見せて、本堂の屋根瓦と落ち着いた調和を見せていました。カエデの幹に小さな芽が生えて、そこには新しい生命の輝きがほの見えるようになっていました。

先程の十字路から南へほんの少し、コンクリートの護岸をした濠の向こうに小山が見えています。これが狐井城山古墳です。全長140メートルの前方後円墳のこの古墳は、城山の名前があるように、その昔にはお城として利用されていたということです。

ここから南へ行くと、ぼっくり寺の阿日寺や阿弥陀橋、恵心僧都誕生の碑などがあります。

